

◎まなび・子育て環境部会の担任事項

意見数38 → 中間報告掲載意見数38

No	発言回	部会名	委員意見	区分
(子育て)				
1	第1回	まなび子育て部会	全国トップクラスである子育て支援策をまとめた資料の内容が素晴らしいので、移住促進を図るためにも県内外に広く周知すべきである。	
2	第1回	健やか・快適環境部会	産前産後ケアセンターの利用を促進するため、産科医療機関・小児科医療機関等との連携を図り効果的な普及啓発に努める必要がある。	
3	第1回	まなび子育て部会	3歳未満児を対象とした保育所については、運営条件を緩和し、県内において新設を進めるとともに、第1子からの保育料無料化など、子育て支援策の充実を検討されたい。	
4	第1回	まなび子育て部会	山梨県が子育てしやすい県ということプロモートするため、空き屋を使った子育て支援など、他の自治体では実施していないような、山梨県の特性を活かした子育て支援策に取り組む必要がある。	
5	第1回	まなび子育て部会	こころの発達総合支援センターの機能をさらに強化し、分室のような形で県内全域を網羅するなど、もっと県民が利用しやすくなるようにしてほしい。	
6	第2回	まなび子育て部会	こころの発達総合支援センターの更なる利用促進のためには、地元NPOやボランティア、教育福祉や男女共同参画関係の方々と連携して周知していく必要がある。	
(結婚・出産)				
7	第2回	まなび子育て部会	子どもを持つ前の夫婦層に対して必要な情報提供を行うとともに、婚活世代に対して体力向上に向けた施策を検討してほしい。	
8	第2回	まなび子育て部会	生殖機能の老化などについて、若い世代への周知を図ってほしい。	
9	第1回	まなび子育て部会	少子化は、現代の若者達が持つ結婚観が問題だと思うので、県として婚活事業をもっと積極的に推進していく必要がある。	
10	第2回	まなび子育て部会	不妊症治療を受けている人が職場で配慮が受けられるよう、企業側の理解を促進するような取り組みを行う必要がある。	
11	第2回	まなび子育て部会	結婚支援等の若者に向けた施策事業について、県内大学生があまり認知していないという現状があるので、若者への周知をさらに推進する必要がある。	
(教育)				
12	第1回	まなび子育て部会	高校生の心のサポートルームと同様に、高等学校の通級指導教室についても山梨県が先行して取り組んでほしい。	
13	第1回	まなび子育て部会	高校以降の家庭での教育費の負担を軽減するため、奨学金制度等により更に支援してほしい。	
14	第2回	まなび子育て部会	学力向上やいじめ・不登校等の問題解消のため、学校教員の教材研究や資料づくりなど子供たちに寄り添う教育活動を推進してほしい。	
15	第1回	まなび子育て部会	子どもの学力向上のための取り組みをさらに推進してほしい。	
16	第2回	まなび子育て部会	教員の質を高めるため、義務と県立、特別支援学校の間で、人事交流を行い、教員同士が勉強し合う環境を整備する必要がある。	

No	発言回	部会名	委員意見	区分
17	第1回	まなび子育て部会	体罰は子どもにとって有益なことは何もないので、教員はそれをよく認識してほしい。	
18	第1回	まなび子育て部会	いじめについては、今後も早期発見・早期対応を心掛けるとともに、児童生徒や保護者が相談しやすい環境づくりに努めてほしい。	
19	第2回	まなび子育て部会	いじめ・虐待の早期発見や、きめ細かな教育の充実や学力の向上のため、本県独自の少人数学級制度をさらに推進する必要がある。	
20	第2回	まなび子育て部会	峡南地域の高校再編について、生徒や地元住民の期待や、地域の人材育成のニーズに対応できる高校づくりをしてほしい。	
21	第2回	まなび子育て部会	少子化が進む県南部の教育拠点として身延高校の役割は大きい。地域に住む子どもたちが夢と希望を持ち、希望して通学できるよう、中高一貫教育を推進してほしい。	
22	第2回	まなび子育て部会	国では、東京オリンピック・パラリンピックに備えて英語教育を強化する方針であるが、英語嫌いに繋がらないよう、子供たちが興味を持ち楽しみながら学べるような英語教育を推進されたい。	
23	第2回	まなび子育て部会	中学生の武道教育について、経験の少ない教員が多いため人事交流を行って欲しい。	
24	第2回	まなび子育て部会	小学校高学年への英語教育が円滑に導入できるよう、人事配置を考慮してほしい。	
25	第2回	まなび子育て部会	特別支援教育については、今後ともマンパワーの充実が必要であるとともに、障害のある子供たちの対応が乳幼児期からスムーズにいくように教育委員会と福祉保健部の連携を図って欲しい。	
26	第2回	まなび子育て部会	特別支援学校の教職員については、現状、期間採用者の割合が高いため、正規採用の教員の割合を積極的に高めるよう推進してほしい。	
(スポーツ)				
27	第1回	まなび子育て部会	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、山梨県なりの小さな山梨スポーツ庁的な部署を設置するといった取り組みを行っていく必要がある。	
28	第2回	まなび子育て部会	子どもたちの健全な心と体の育成のために、本県オリンピックの組織化と有効活用を実現してほしい。	
29	第1回	まなび子育て部会	サイクルネットワークは、県民の体力向上に繋がるとともに観光にも役立つものなので、それに資する道路整備などを進めてほしい。	
30	第1回	まなび子育て部会	山梨サイクルネットは観光面では良いが、マナーを守らない人もおり、地域住民が危険にさらされる心配があるため、まずは、道路の整備と交通ルールの徹底を行って欲しい。	
31	第1回	まなび子育て部会	スポーツを気軽に楽しめる機会を提供するため、県や市町村が中心となり、地域のスポーツ教室を実施してほしい。	
(その他)				
32	第1回	まなび子育て部会	教育や子育てについて、山梨県では現状何が問題であるのかをきちんと見据え、問題に対して的を絞って取り組んでいくことが必要である。	
33	第2回	安全安心・交流基盤部会	貧困対策として、貧困家庭への食糧支援の取り組みに対する支援を継続してほしい。	

No	発言回	部会名	委員意見	区分
34	第1回	まなび子育て部会	若い人を県内に呼び込むためには仕事が必要となるので、県で行っている農業就労のための事業を継続していく必要がある。	
35	第1回	まなび子育て部会	農村部では、結婚していない人や単身世帯の高齢男性などが多いという現状があるので、こうした方々をどのように支援していくのが課題である。	
36	第2回	まなび子育て部会	山梨への帰郷・移住を考える人に対し、東京と山梨のライフデータを比較した情報を提供するなど、本県の良さをわかりやすく示し、ライフデザインしやすいようパンフレットなどを用いて見える化する必要がある。	
37	第2回	まなび子育て部会	同性愛の家庭など、世の中には様々な形の家族があるということを県庁のイベントなどで取り上げ、世間に周知を図ってほしい。	
38	第2回	まなび子育て部会	県内工業系高校生の資格取得が県内企業への就職にどのくらい繋がったのかや、女性活躍の支援についてもどのくらい女性リーダーの育成に繋がったのかを整理する必要がある。	

◎健やか・快適環境部会の担当事項

意見数26 → 中間報告掲載意見数25

No	発言回	部会名	委員意見	区分
(医療・介護)				
1	第1回	健やか・快適環境部会	地域包括ケアシステム構築には、医療と介護の連携が鍵であるため、両職種が日頃から会え、研修する施設づくりと、在宅医療に対する市町村の理解を深める市町村と地域医療関係者の話し合いの場の設置を検討されたい。	
2	第1回	健やか・快適環境部会	包括ケアシステムの構築に必要な新しい介護予防や日常生活支援総合事業などの活動の中に、社会福祉協議会を組み込まれたい。	
3	第1回	健やか・快適環境部会	認知症施策等の地域支援事業の効果を上げるには、医療と支援事業の相互補完が必要のため、支援事業の取組内容について、医療関係機関へ逐次情報開示してほしい。	
4	第1回	健やか・快適環境部会	介護・生活支援サービスにあたり、症状に応じた適切な専門人材が配置できるよう、人材育成に努めることが必要である。	
5	第1回	健やか・快適環境部会	本県の要介護認定率は日本一低いため、その要因をしっかりと分析し、全国へ発信することが必要である。	
6	第2回	健やか・快適環境部会	疾病のある高齢者の病院退院後の受け皿だけでなく、介護予防の面でもきちんと体制を整備し、住宅建設や施設整備を行うようにされたい。また、市町村の介護予防事業の内容が分かりにくいので、関係機関に対して情報提供を行ってほしい。	
7	第2回	健やか・快適環境部会	小児慢性特定疾患児童等に対する支援員の適正な配置と連携について検討されたい。	
8	第1回	健やか・快適環境部会	在宅医療を推進するため、在宅医療に関わる多職種間を調整する高度な技能を持つ専門人材の育成を図る必要がある。	
9	第2回	健やか・快適環境部会	地域包括支援センターが中心となり、市町村等と連携して在宅医療に関する情報共有を図られたい。	
10	第1回	健やか・快適環境部会	在宅医療・訪問看護等に対する県民への強力な周知が必要である。	
11	第2回	健やか・快適環境部会	在宅医療について、市町村等に対して方向性を示すことが必要である。	
12	第2回	健やか・快適環境部会	在宅医療の連携拠点を整備するため、医師会でも取り組んでいるが、市町村や関係機関に声かけをして積極的に推進されたい。	H28年度中に対応
13	第2回	健やか・快適環境部会	主要成果説明書において、禁煙に対する取り組みが、健康寿命の延伸の項目のひとつであることを分かるようにしてほしい。	
(防犯)				
14	第1回	健やか・快適環境部会	特殊詐欺について、消費生活研究会では全県下で積極的に啓発活動を進めているが一向に減らない。今後も継続して対策を講じてほしい。	
15	第2回	安全安心・交流基盤部会	公園について、犯罪の温床とならないよう、事故防止だけでなく防犯上などの観点から、安心・安全に利用できるよう防犯カメラ等の整備をしてほしい。	

No	発言回	部会名	委員意見	区分
(移住・定住)				
16	第1回	健やか・快適環境部会	移住希望者の増加に繋げるため、山梨への転入者の年齢層や移住理由などを分析し、実態の把握を行ったかどうか。	
17	第1回	安全安心・交流基盤部会	県外者の県内移住をさらに促進するためには、山梨の良さ、人とのつながりの深さ、恵まれた自然、災害の少なさなどを、県外へ上手に情報発信してほしい。	
(環境・景観)				
18	第1回	健やか・快適環境部会	本年度策定する県の地球温暖化対策実行計画において、これまでの目標である「CO2ゼロやまなし」や「地産地消エネルギー100%」に継続して取り組んでほしい。	
19	第2回	健やか・快適環境部会	中心街の駐車場にブドウ棚を設置する事業を行っているが、支援措置を検討されたい。	
20	第1回	健やか・快適環境部会	家庭ゴミの減少には、行政と企業の連携強化により問題を共有し、情報発信と啓発運動に努めることが必要である。	
21	第1回	健やか・快適環境部会	重点項目に景観形成はないが、景観形成・景観づくりの推進は、定住人・交流人の増加のためにも、他分野の施策と連携して効果を上げるべき重要な施策である。	
(その他)				
22	第1回	安全安心・交流基盤部会	子供から高齢者までの多様な県民のニーズに応えるためには、行政だけで事業を実施するのではなく、NPOなどとの協働が重要である。	
23	第1回	健やか・快適環境部会	県が行っている結婚支援事業と、障害者福祉協会が県から委託を受けて行っている障害者を対象にした結婚支援事業について、互いに情報提供を行い連携した取り組みを行うことが必要である。	
24	第2回	健やか・快適環境部会	県外の福祉介護人材等の県内空き家への移住に対する家賃補助など、人口減少と空き家、福祉介護人材の確保を横串した事業に取り組む必要がある。	
25	第1回	健やか・快適環境部会	命と暮らしを守る消費者活動を県民運動として推進するためには、行政・企業・住民による協働体制の仕組みづくりと、その土台を担う人材育成が必要である。	
26	第1回	健やか・快適環境部会	市町村による空き家の実態調査を促進するとともに、市町村と連携して積極的に対策を講じてほしい。	

◎安全安心・交流基盤部会の担当事項

意見数28 → 中間報告掲載意見数27

No	発言回	部会名	委員意見	区分
(消防・防災)				
1	第1回	安全安心・交流基盤部会	どの市町村がどのような防災備蓄をしているか、関東あるいは全国でネットワークを作るよう国に働きかけてほしい。	
2	第1回	安全安心・交流基盤部会	高齢化及び中心市街地の人口不足により消防団員が少なくなっているため、若い人たちに消防団に入団してもらうための施策が必要である。	
3	第1回	安全安心・交流基盤部会	防災は行政にだけに頼るのではなく、最後には地域での自主防災活動が大切なことから、人づくりや意識の醸成を図る施策に取り組まれない。	
4	第1回	安全安心・交流基盤部会	富士山噴火の際には、住民自身がどのように避難するかを考えなければならないので、自助が一番大事だということをもっと周知しなければならない。	
5	第1回	安全安心・交流基盤部会	地域のことを特によく知っている高齢者や女性が、自主防災養成講座などを受けられる環境整備をされたい。	
6	第2回	安全安心・交流基盤部会	地域防災リーダーや防災士・アドバイザーの活動について、もっと県民に周知してほしい。	
7	第1回	地域産業元気部会	災害情報や避難所情報を確認することができるアプリケーションの作成が必要である。	
8	第2回	安全安心・交流基盤部会	災害時の水確保のため、開発に伴う井戸掘削の義務化と助成制度創設を検討されたい。	
9	第1回	健やか・快適環境部会	災害時の飲料水や生活用水確保のため、県内の井戸マップの作成を検討されたい。	
10	第2回	安全安心・交流基盤部会	防災予防の観点から自助の重要性について、展示など目に見える形で情報提供に積極的に取り組んでほしい。	
11	第2回	安全安心・交流基盤部会	防災意識啓発のために、防災関係のイベントを開催するなど防災新館を活用してほしい。	
12	第2回	安全安心・交流基盤部会	災害時における自動車での避難について検討していく必要がある。	
13	第1回	安全安心・交流基盤部会	災害発生時に、県、国、市町村のそれぞれが建設業界と協定を締結しているが、能率的に動くため、ワンストップで動けるようにしてほしい。	
14	第2回	安全安心・交流基盤部会	緊急災害時等に地元建設業者が円滑に活動できるよう、人材育成・地元業者の育成と維持に取り組んでほしい。	
15	第2回	安全安心・交流基盤部会	道路の耐震化にあわせて、電柱や沿線の建物の対策も講ずることが必要である。	
16	第2回	安全安心・交流基盤部会	耐震診断については、人命・財産の保護や避難路等の確保のためにも積極的に進めてほしい。	

No	発言回	部会名	委員意見	区分
17	第2回	安全安心・交流基盤部会	防災面から、河川内の立木除去を進めてほしい。	
18	第2回	安全安心・交流基盤部会	家庭向け火災報知器の設置について、引き続き啓発活動を推進してほしい。	
19	第2回	安全安心・交流基盤部会	観光案内ボランティアに対し、外国人観光客向けの防災情報を含めた観光案内チラシを提供してほしい。	
(リニア)				
20	第2回	地域産業元気部会	リニア中央新幹線が開通した後の将来計画を策定するなど、県民に方向性を示されたい。	
21	第1回	安全安心・交流基盤部会	リニア環境未来都市の大津町周辺だけでなく、県下全体がリニア中央新幹線の恩恵を享受できるような施策展開をしてほしい。	
22	第1回	安全安心・交流基盤部会	リニアの橋脚や橋の施工に地元建設業が関われるよう支援されたい。	
23	第2回	安全安心・交流基盤部会	リニア中央新幹線の早期開業のために、住民に対して、騒音の環境影響の類型基準を早期に示されたい。	H28年度中に 対応
(その他)				
24	第2回	安全安心・交流基盤部会	ラウンドアバウト交差点は停電時にも利用できるという利点があり、また、全国で死亡事故ゼロであるという実績も踏まえ、部局間で連携して県内に積極的に取り入れてほしい。	
25	第2回	安全安心・交流基盤部会	東京行きのJR中央線について、6時台など朝早い時間帯の特急運行を実現してほしい。	
26	第2回	安全安心・交流基盤部会	建設業の担い手不足対策のために、小中学校でも建設業に関する職業教育に力をいれて取り組んでほしい。	
27	第2回	安全安心・交流基盤部会	横断歩道などの道路標示が摩耗している箇所について、運転者、歩行者がしっかり認識できるよう整備が必要である。	
28	第1回	安全安心・交流基盤部会	高齢者に起因した交通事故が増えているので、高齢者の交通事故防止として、高齢者が免許を返納しても生活ができる環境づくりが必要である。	